よろこび

日蓮宗 鷲聖会

本山 妙顕寺
長音山 本要寺

『よろこび』二十四

貫首　齊藤　日軌

「南無妙法蓮華経と唱え、涅槃にありましょう」

二月十五日は、お釈迦さまの亡くなった日です。お寺の多くは、毎年このお釈迦さまの命日に涅槃会の法要を執り行います。さて、「涅槃」とはサンスクリット語で「ニルヴァーナ」と言います。「ニルヴァーナ」とは「吹き消すこと」という意味であり一切の煩悩がふき消された悟りの境地を意味します。仏教では貪欲（足るこを知らぬ欲望）、瞋恚（いかり）、愚痴（おろか）の滅尽つまり三毒がなくなった状態を涅槃といいます。

涅槃は、一切の煩悩を離れ空なる心境に達し、悩み苦しみを離れた、寂静の境地です。すなわち肉体から来る煩悩の波動を超えた高次元の喜びの境地です。

みおしえ

南無妙法蓮華経ととなえ、仏心を持ち、涅槃の境地にありましょう。涅槃とは、愚癡、怒り、たることを知らぬ欲望の心の三毒を離れた境地。それは肉体煩悩の次元の心を離れた静かで澄み切った心境です。したがって輪廻転生のカルマを離れ、生死を超えた心境です。この心境にあると心の底から静かな喜びがたえずわき上がってきます。生きているとき涅槃の境地に入ると、死後は全く肉体の煩悩の波動に影響されない完全な涅槃の境地に入ります。そして、輪廻から解脱することができます。

法華経譬喩品第三の、「三車火宅のたとえ」に「ブッダは、衆生を生老病死の苦しみ、悲しみや煩悩から解き放ち、輪廻から解放する為に三界に出現した」と説かれ、煩悩の生活を火のついた家に喩えています。私たちは、南無妙法蓮華経と唱えブッダの心を心とし涅槃の境地に入りましょう。私たちは信仰によって涅槃の境地に入ることができます。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
空なる涅槃の境地にあり
ましょう